

「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成30年 3月 30日

仕事の内容	高齢者見守りぼっくす事業					
担当部署・課長名	高齢介護	課	高齢福祉	係	課長名	伊野宮 崇

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。

【施策】 高齢者保健福祉の推進

(総合計画書 51 ページ)

予算名	3	民生費	項	1	社会福祉費	目	3	老人福祉費	事業	14	高齢者見守りぼっくす事業	
1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。 高齢者見守りぼっくすの担当区域内の ①ひとり暮らし高齢者、②高齢者のみ世帯、③日中において独居の状態にある高齢者						① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標) 平成29年4月1日現在(高齢者見守りぼっくすの担当区域内) ①ひとり暮らし高齢者世帯数、②高齢者のみ世帯数、③日中において独居の状態にある高齢者世帯数					
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 高齢者の生活実態の把握、相談業務、緊急時の対応等、必要な支援を行うことにより、高齢者の在宅生活の安心を確保する。						② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標) ①見守り対象者名簿登録人数(年度末時点) ②見守り活動実施延べ件数 ③相談延べ件数 ④民間緊急通報システム設置世帯数					
	③ そのために何をしましたか。 高齢者ほっと支援センターを運営する社会福祉法人又は医療法人に委託して、事業を実施している。見守りぼっくす相談員が、高齢者の在宅生活の安心を確保するため、その生活実態の把握や関係機関との連携による高齢者の見守りを行い、緊急通報システムを活用した緊急時対応など必要な支援を行うとともに、高齢者の相談を受けている。						③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標) ①見守り対象者名簿登録人数(年度末時点) ②見守り活動実施延べ件数 ③相談延べ件数 ④民間緊急通報システム設置世帯数(年度末時点)					

		単位	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成31年度目標
2 指標の推移	対象指標	①の数値	①5,323世帯 ②4,392世帯 ③不明	①5,570世帯 ②4,555世帯 ③不明	①5,865世帯 ②4,670世帯 ③不明		
	成果指標	②の数値	①504人②4,584件 ③1,313件④102世帯	①758人②5,130人 ③2,988件④145世帯	①711人②4,933人 ③2,988件④179世帯		
	目標	②の目標値 目標値設定の考え方					
	活動指標	③の数値	①504人②4,584件 ③1,313件④102世帯	①758人②5,130人 ③7,115件④145世帯	①711人②4,933人 ③2,988件④179世帯		

3 経費	事業費(実績)		円	28,318,797	37,644,888	38,464,916	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外) 年間単価は、8,253,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】平成28年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
	財源	一般財源	円	13,266,797	17,382,888	17,432,916	
		特定財源	円	15,052,000	20,262,000	21,032,000	
		(うち受益者負担)	円	0	0	0	
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.6	0.6	0.6	
		所要人数(再任用)	人	0.0	0.0	0.0	
		職員人件費(再任用以外)	円	4,939,800	4,960,200	4,951,800	
	職員人件費(再任用)	円	0	0	0		
事業費+人件費		円	33,258,597	42,605,088	43,416,716		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。 東京都の高齢者見守り相談窓口設置事業(旧シルバー交番設置事業)に基づき、平成25年4月から見守りぼっくす事業を開始。各ぼっくすには、常勤1名と非常勤1名を配置し、高齢者ほっと支援センターを運営している社会福祉法人又は社会医療法人財団に委託して事業実施している。高齢者の在宅生活の安心を確保するため、その生活実態の把握や関係機関との連携における高齢者の見守りを行い、緊急通報システムを活用した民間緊急時対応など必要な支援を行うとともに、高齢者の相談を受けて、問題解決に当たることを目的としている。 開始当初と比較し、状況の変化はありますか。 平成25年4月に「高齢者見守りぼっくすならはし」を開設。平成26年4月に「高齢者見守りぼっくす しんぼり」を開設。平成27年4月に「高齢者見守りぼっくす なんがい」を開設し、市内全域において見守りぼっくす事業を展開している。当初は常勤相談員1名、非常勤事務職員1名の2名体制であったものを、東京都の実施要綱の改正に伴い、平成28年度から常勤相談員1名、非常勤相談員1名の2名体制としている。	
-----------	---	--

5 市民等の意見	この仕事に関して、平成29年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について 高齢者見守りぼっくす事業における民間緊急通報システムへの関心が高く、市民からの相談・問い合わせが多い。見守りぼっくすが徐々に周知され、民生委員、自治会、介護予防等自主グループ、地域住民等からの情報提供や相談が増加傾向にある。また、事業が市民に少しずつ周知されてきたことで、アウトリーチ訪問も円滑に行えるようになってきている。	
-------------	--	--

仕 事 の 内 容	高齢者見守りぼっくす事業			
担当部署・課長名	高齢介護	課	高齢福祉	係 課長名 伊野宮 崇

6 市民協働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択しご記入ください。(複数回答可)			
	取組みは無い	取組手法	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換(広報媒体:) ⑦後援・場の提供 ⑧その他()	
(2)平成30年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点をご記入ください。				
7 課 題	(1)平成28年度の課題についての解決に向けた取組や、事務改善など、平成29年度に実施したことをご記入ください。			
	市報、ホームページ、高齢者見守りぼっくす通信等により、見守りぼっくす事業について周知を図った。また、福祉祭への出店、地域の自助グループやサークル、商店等にも顔を出し連携を深め、積極的にPR活動を行った。			
(2)この仕事を振り返り、課題をご記入ください。				
65歳以上単身世帯及び65歳以上のみの世帯名簿に基づき、高齢者の実態把握を行っているが、対象世帯が見守りぼっくす1か所あたり、3,500世帯程と多くなっていることから、効率よく訪問する方法を検討する必要がある。				
8 今 後 の 方 向 性	(1) 仕事の方向性(「7 課題(2)」を踏まえた具体的な改革・改善案など)			
	徐々に見守りぼっくす事業について市民に周知されつつあるが、まだ認知度が低いため、さらなるPR活動を行っていく。 見守りぼっくす相談員とも協議しながら、地域の高齢者の実態把握の方法について検討していく。			
	(2) 上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等を具体的にご記入ください。			
福祉祭、長寿の集い等のイベントに参加し、広く市民にPRできる場の確保を図る。 見守りぼっくす連絡会(市と見守りぼっくすとの定例会)において、高齢者の実態把握方法について検討し、基準を作成する。				
(3) 改革・改善案による期待成果				
上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。				
成果	成果を向上させる。		経費	仕事の経費は維持する。